

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先)川崎市長

郵便番号 210-0801  
 住 所 川崎市川崎区鈴木町1番2号  
 氏 名 味の素ファインテクノ株式会社 印  
 代表取締役社長 岸本 信一  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素ファインテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	機能化学品, 電子材料の開発・製造・販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,592	kl
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	製造部
		所在地	川崎市川崎区鈴木町1番2号
		電話番号	044-221-2376
		FAX番号	044-221-2388
		メールアドレス	webmaster@aft-website.com
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ～ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	各工場について、エネルギー負荷の低減を中心として排出量の抑制を図る。 ・換気設備の運転管理 ・ブローワー、コンプレッサーの運転管理 ・照明設備の運用管理 詳細は、指針様式第1号(第4, 5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	廃棄物の分別, リサイクル, 減量化の推進 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
備 考	

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

<基本理念>

味の素ファインテクノ株式会社は、電子材料と機能材料および活性炭の事業分野で製品の開発・生産および販売を行っており、そのすべての事業活動において環境と安全に配慮し、技術力・開発力を活用して地域環境・地球環境の保全と安全確保に積極的に取り組みます。

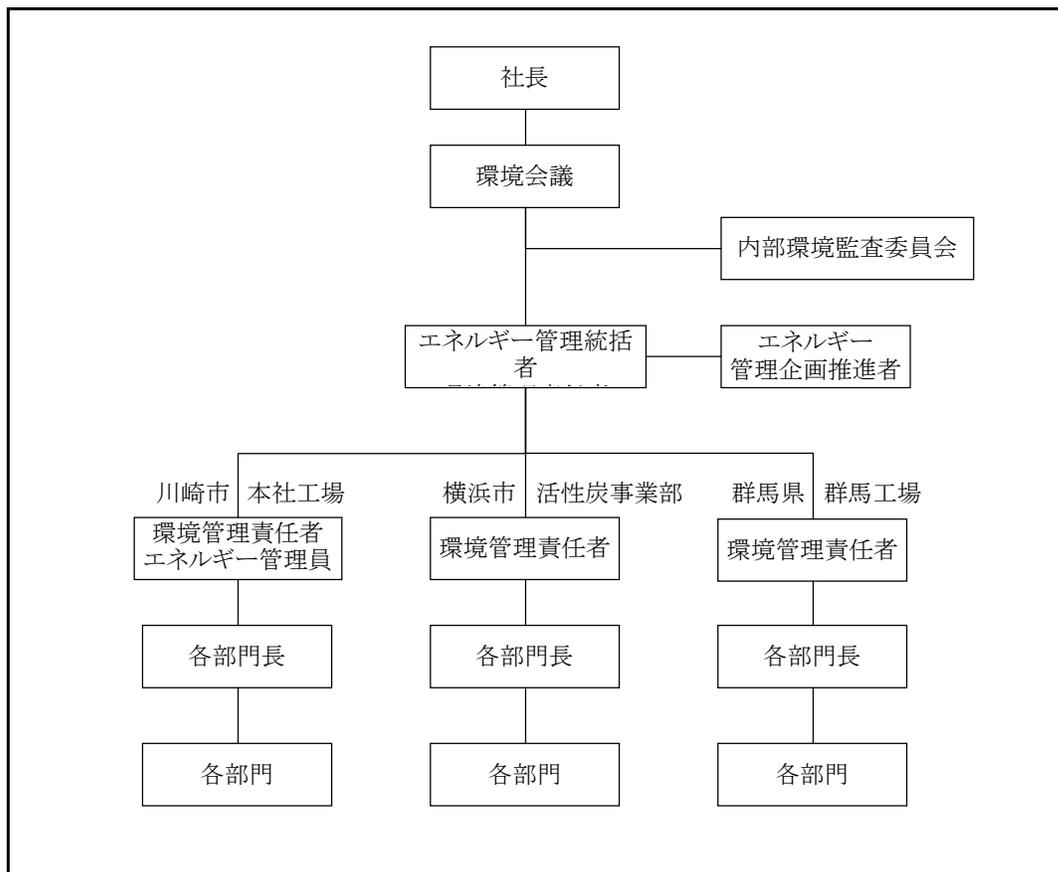
<省エネ・省資源の推進>

資源を大切にすることを原点に、省エネルギー・省資源および廃棄物の削減・再資源化に努めます。

<継続的改善>

環境安全目的・目標を定め、その実現のためにマネジメントシステムを運用して、継続的改善および汚染の予防およびリスク低減に取り組みます。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等(第1号、第2号、第4号該当者等)

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 2,924 (調) 2,533 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 2,924 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 0.0 %	削減量	(実) 0 t-CO <sub>2</sub>

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産量	単位	t-CO <sub>2</sub> /ton
基準年度の値	3.679	目標年度の値	3.097
削減率	15.8 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

## ウ 目標設定に関する考え方

<p>①一部製品について、年10%の増産が見込まれる。そのため、エネルギー使用量は増加の方向にあるが、省エネ対策により基準年度以下に抑えることとし、原単位では改善を図ることを目標とする。</p> <p>②生産効率を向上させる。</p> <p>③機械室、電気室など、季節に応じて換気回数を見直す。</p> <p>④排気ブローワーの適切な運転条件を検討する。</p> <p>⑤インバータ式コンプレッサの導入を検討する。</p>
---

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標(全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<p>①エネルギー使用量の把握 フロア、工場などの区域毎に電力、蒸気の使用量を把握し、エネルギー使用削減できる施設を特定できるか検討する。 生産設備については、昼夜、季節変動を見ながら、運転条件を見直すことによりエネルギー削減が可能か検討する。</p> <p>②熱機器の断熱性向上 作業環境の面からも、熱機器の断熱性を向上させられないか検討する。</p> <p>③換気回数の見直し 変電所等で換気回数を削減できないか検討する。</p> <p>④電気抵抗による損失の防止 変電設備等の電気機器において、抵抗損失を削減できないか検討する。</p> <p>⑤ブローワー、コンプレッサー運転の適正化 ブローワー、コンプレッサーについて、圧力、流量の適正化、インバータ式機器の導入が可能か検討する。</p> <p>⑥高輝度照明の利用 事務所など照明機器について、LEDやHFなどの機器を使用していく。</p> <p>⑦省エネの啓蒙 夏期、冬期に省エネキャンペーンを実施する。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

## (2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

## ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現在のところ利用の予定なし。

## イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
なし			

## ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考
なし			

## (3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

生産施設や冷蔵倉庫の空調室外機について、夏期日中、タイマーによりその放熱板へ水噴霧し、冷却効率を改善した。  
 クリーンルームの空調について、夜間休日に換気回数や風量を低下させる運転モードを設定した。  
 生産量原単位で約4%改善した。

6 他の方の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- ①従業員の通勤におけるマイカー使用禁止の継続。
- ②使用する原材料の簡易包装, 通い箱の使用。
- ③運送業者に対する低燃費車使用やエコドライブ実施の要請。
- ④廃棄物の削減, 減量化。
- ⑤従業員への環境教育の実施。
- ⑥ISO14001による環境改善活動の実施。

## 8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

## (1) 事業者単位

## ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	2,924	t-CO <sub>2</sub>
(調)	2,533	

## イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

## (2) 事業所等单位(第1号、第2号該当者等)

## ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
本社工場	川崎市川崎区鈴木町1番2号	1639	その他の有機化学工業製品製造業	2,924 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

## イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

## ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

## (3) 事業所等单位(第4号該当者等)

## ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t以上(二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

## イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量(二酸化炭素換算)が3,000t未満(二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。)の事業所の数

事業所数	
------	--